

天皇制を考える市民講座

2014 年

11 月 21 日 (金)

午後 6 時半から

会場 神戸学生青年センター

(阪急六甲駅下車、北東徒歩 3 分) TEL078-851-2760

講師 菱木 政晴さん

同朋大学大学院特別任用教授、真宗大谷派僧侶。安倍首相靖国参拝違憲訴訟原告団、靖国アジア訴訟原告団、小泉靖国参拝訴訟原告団などに参加し、一貫して靖国問題に取り組む。念仏者九条の会よびかけ人。著書『市民的自由の危機と宗教 改憲・靖国神社・政教分離』（白澤社、2007.2）、『殉教と殉国と信仰と 死者をたたえるのは誰のためか』（高橋哲哉、森一弘との共著、白澤社、2010.6）

講演

再び戦争する神の国へ

安倍首相はなぜ靖国参拝するのか

参加費 700円

2013年12月26日、安倍首相は公用車で靖国神社に向かい「内閣総理大臣安倍晋三」と記帳し、正式に祓いを受けて昇殿参拝しました。小泉首相いらい途絶えていた首相の公式参拝に対して、国内の批判のほかにも、かつて日本に侵略・支配された韓国、中国を始めとしたアジア各国から批判の声があがり、外交関係は悪化し凍結状態になりました。さらに最大の同盟国であるアメリカまで「失望した」という特別談話を発表しました。

最大の問題は靖国神社にあります。靖国神社は、天皇につくした死者、侵略戦争の戦死者を「英霊」として祀る神社であり、日本の侵略戦争を「アジア解放戦争」「聖戦」と賛美しています。

今年、安倍首相はついに集団的自衛権は実施できると閣議決定しました。日本がアメリカとともに戦争すると決意したのです。自衛ではなく外国に出かけ人を殺し、日本人にも戦死することを求めています。そして戦死した人を祀るために靖国神社を必要としているのです。

関西だけでも700人を超える原告による安倍靖国参拝違憲訴訟について考えてみましょう。

共催 神戸学生青年センター、はんてんの会